

【道路建設課所管 再評価審議資料】

○ 再評価対象箇所一覧表 . . . p 1

○平成 2 9 年度 再評価実施箇所

道路改築事業（社会資本整備総合交付金）	. . . p 2
1）（国）1 5 7 号 三橋工区	. . . p 3 ～ 1 2
2）（主）岐阜美山線 折立 I 期工区	. . . p 1 3 ～ 2 2
3）（主）大垣養老公園線 鷺巣工区	. . . p 2 3 ～ 3 2
4）（主）岐阜美濃線 極楽寺工区	. . . p 3 3 ～ 4 1
5）（主）神岡河合線 太江杉崎工区	. . . p 4 2 ～ 5 1

平成29年度 再評価対象箇所一覧表 8月24日審議箇所
 [県土整備部 道路建設課]

番号	事業名	路線・地区 ・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要			全体事業費 (百万円)	実施済み額 (百万円)	進捗率 (%)	経過年数 (H28.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地元の意向	環境との調 和への配慮 事項	事業費縮減	費用対効 果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量 (km)	実施済事業量 (km)	事業 実施率												
									用地補償費	用地補償費	用地補償費									
									工事費等	工事費等	工事費等									
1	道路改築事業	(国)157号	三橋工区	24	32	0.47	0.00	0.0%	860 480 380	381 300 81	44.0% 63.0% 21.0%	5	県土1,700km骨格幹線ネットワーク構想の推進 東海環状自動車道のインターアクセス道路の整備推進	—	—	—	盛土材の流用によるコスト縮減	2.00	継続	
2	道路改築事業	(主)岐阜美山線	折立Ⅰ期工区	24	32	0.58	0.00	0.0%	2,370 1,412 958	1,411 1,275 136	60.0% 90.0% 14.0%	5	東海環状自動車道のインターアクセス道路の整備推進 洗滞緩和による円滑な交通の確保	—	—	—	盛土材の流用によるコスト縮減	6.50	継続	
3	道路改築事業	(主)大垣養老公園線	鷺巣工区	13	35	1.55	0.00	0.0%	4,636 1,081 3,555	1,200 841 359	26.0% 78.0% 10.0%	16	緊急輸送道路の整備推進 東海環状自動車道のインターアクセス道路の整備推進	養老ICが平成29年の秋に開通予定	—	—	盛土材の流用によるコスト縮減	1.70	継続	
4	道路改築事業	(主)岐阜美濃線	極楽寺工区	24	34	0.84	0.00	0.0%	1,418 793 625	933 595 338	66.0% 75.0% 54.0%	5	高速道路へのアクセス向上	—	—	—	盛土材の流用によるコスト縮減	4.00	継続	
5	道路改築事業	(主)神岡川合線	太江杉崎工区	H14	H39	1.48	1.20	81.1%	2,000 378 1,622	1,553 287 1,266	78.0% 76.0% 78.0%	15	災害時に有効に機能するネットワークの確保	—	交通需要の変化に合わせた道路整備の推進	—	現場発生土の他事業流用によるコスト縮減	1.6 (1.9)	継続	※前回再評価H24

費用対効果分析: ()は前回評価時の投資効果率

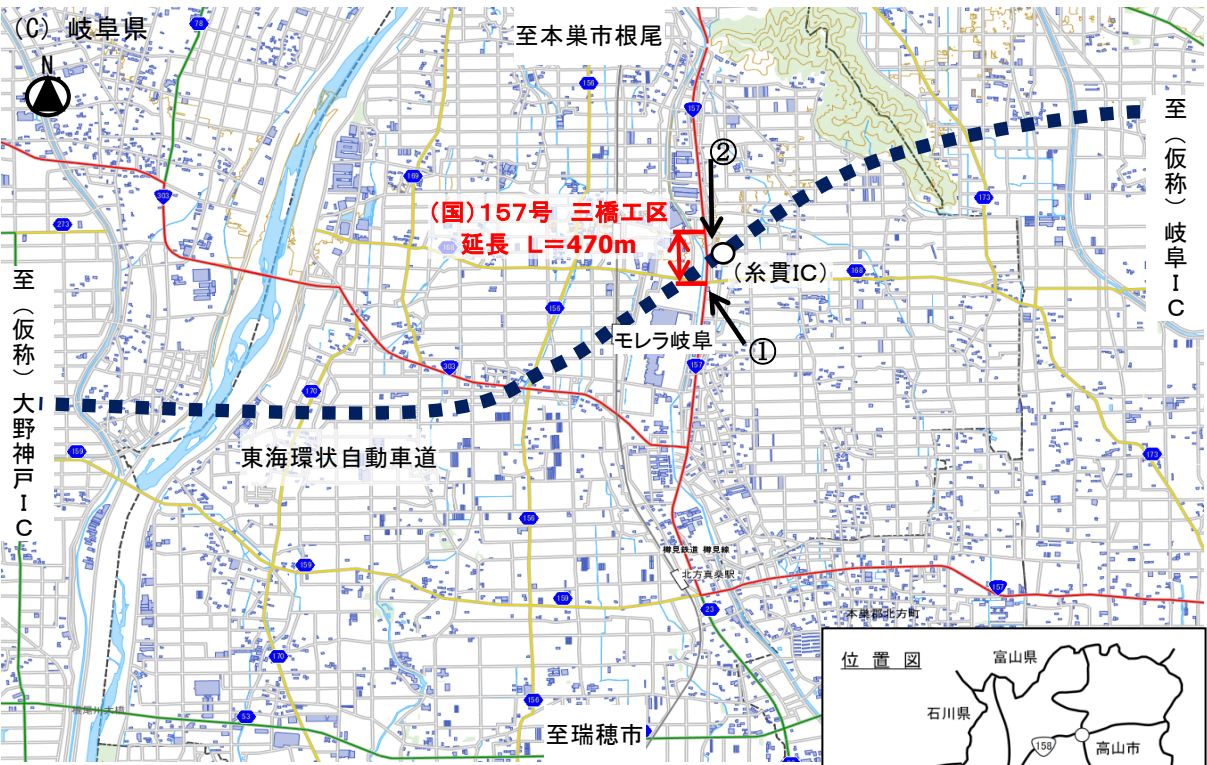
平成29年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名		道路改築事業（社会資本整備総合交付金）
	事業目的		地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。
	採択基準		地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。
	概要 (メニュー)		現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	・費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 - 現在価値算出のための社会的割引率：4% - 基準年次：評価時点 - 検討年数：50年間	
	費用便益比の基準	費用便益比（B／C）1.0以上	

平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	1	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改良事業 国道157号 三橋工区
事業実施箇所	もとししみつはし 本巣市三橋地内		事業主体 岐阜県
採択年度	平成24年度	完了予定年度	平成32年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で、継続中の事業（経過措置）		
事業目的	国道157号 三橋工区は、東海環状自動車道（仮称）糸貫IC への一次アクセス道路整備として位置づけられており、国道157号から（仮称）糸貫ICへの乗り入れを整備するものである。		
事業概要	事業延長：470m 車道幅員 : 3.25m×4車線 歩道幅員 : 3.00m（両側）		
概 要 図	 位置図 		
写真撮影箇所①			
写真撮影箇所②			

事業再評価 道路改築事業

一般国道157号

みつはし
(三橋工区)

岐阜県 県土整備部 道路建設課

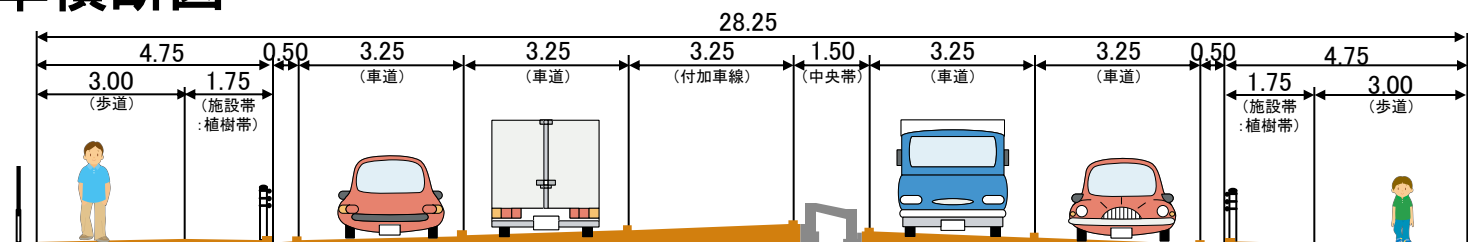
平成29年9月



事業概要

- ◆起 終 点：本巢市三橋 もとすしみつはし
- ◆延 長：470m
- ◆総事業費：約8.6億円
- ◆事業着手：平成25年度
- ◆完成予定：平成32年度（参考）※
- ◆幅 員：車道 3.25m × 4車線
：歩道 3.0m（両側）

◆標準横断図



※東海環状自動車道整備の進捗に合わせ対応⁶

事業の目的

- 東海環状自動車道（仮称）糸貫ICへのアクセス道路整備
 - ・ 国道157号から（仮称）糸貫ICへの乗り入れを整備

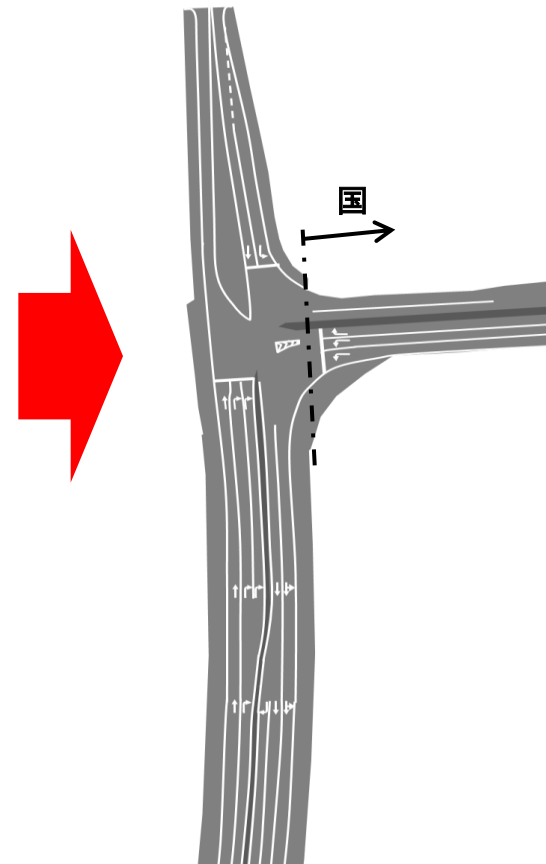
写真
（仮称）糸貫IC建設予定地



現状



整備後



至
（仮称）糸貫IC

費用対効果分析

事業の効果

●走行時間短縮便益		<u>効果全体の約 87.9%</u>
●走行経費減少便益		<u>効果全体の約 9.1%</u>
●交通事故減少便益		<u>効果全体の約 3.0%</u>

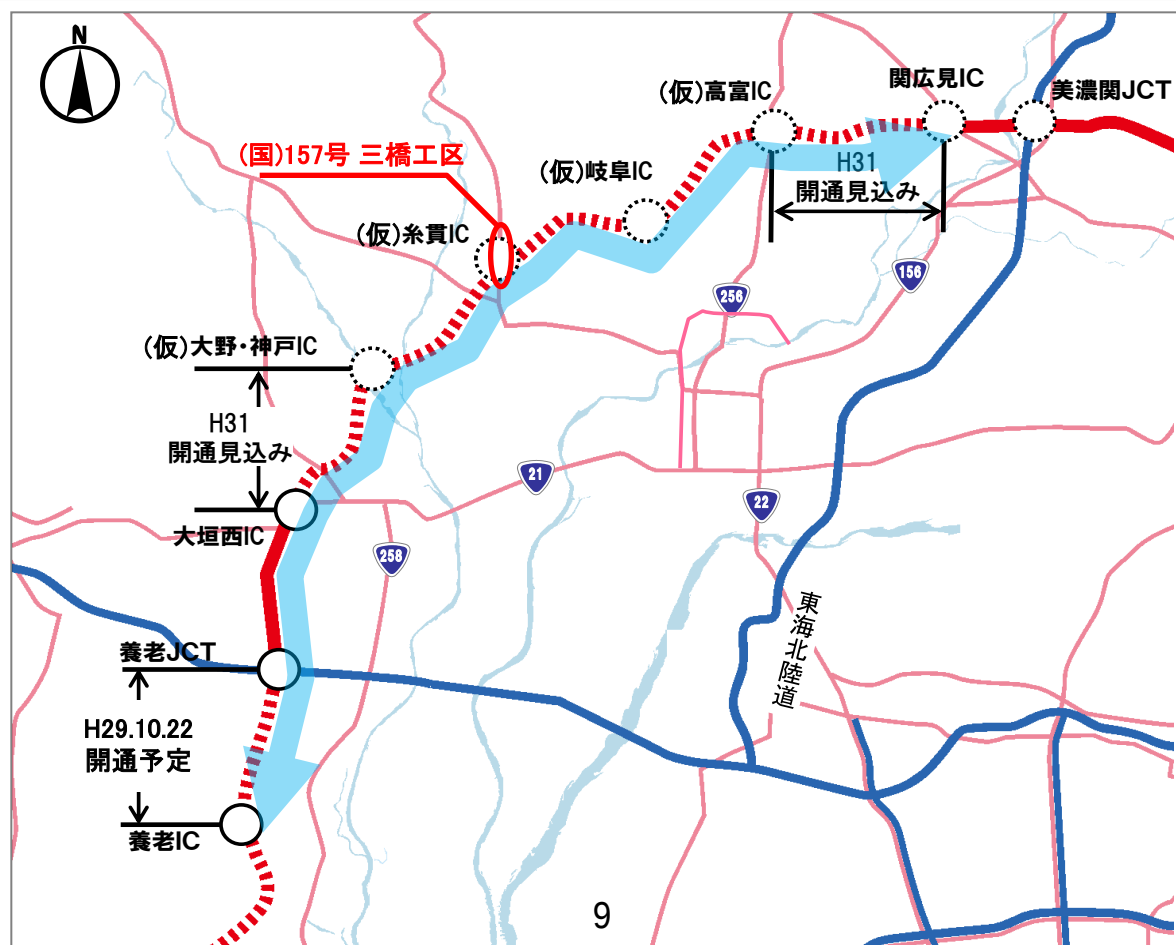
投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 2.0 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(H20.11 国土交通省)に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 東海環状自動車道について、平成29年度に養老JCT～養老IC間、平成31年度に関広見IC～（仮）高富IC間、（仮）大野・神戸IC～大垣西IC間が開通予定。
- （仮）高富IC～（仮）大野・神戸IC間も開通に向け着々と整備が進められていることから、アクセス道路も着実に整備を進める必要がある。

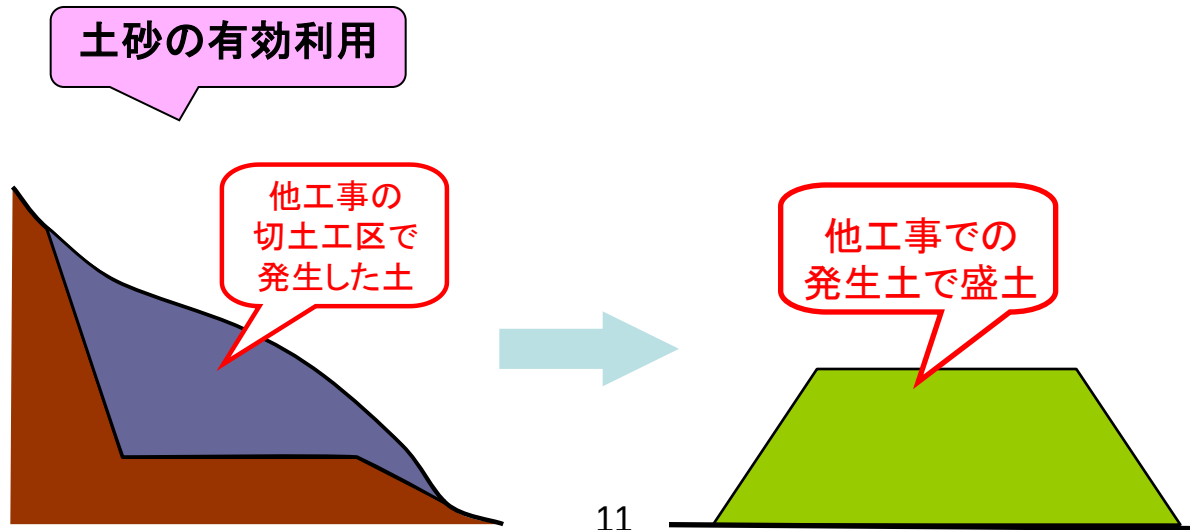


コスト削減の取り組み

◆盛土材の流用によるコスト削減

■他工事で発生した土砂、 $V = \text{約} 5,400 \text{ m}^3$ を盛土部に有効利用

約 3 千万円のコスト削減



対 応 方 針（案）

○国道 1 5 7 号 三橋工区の整備は、東海環状自動車道 糸貫 I C（仮称）へのアクセスのため、必要不可欠である。

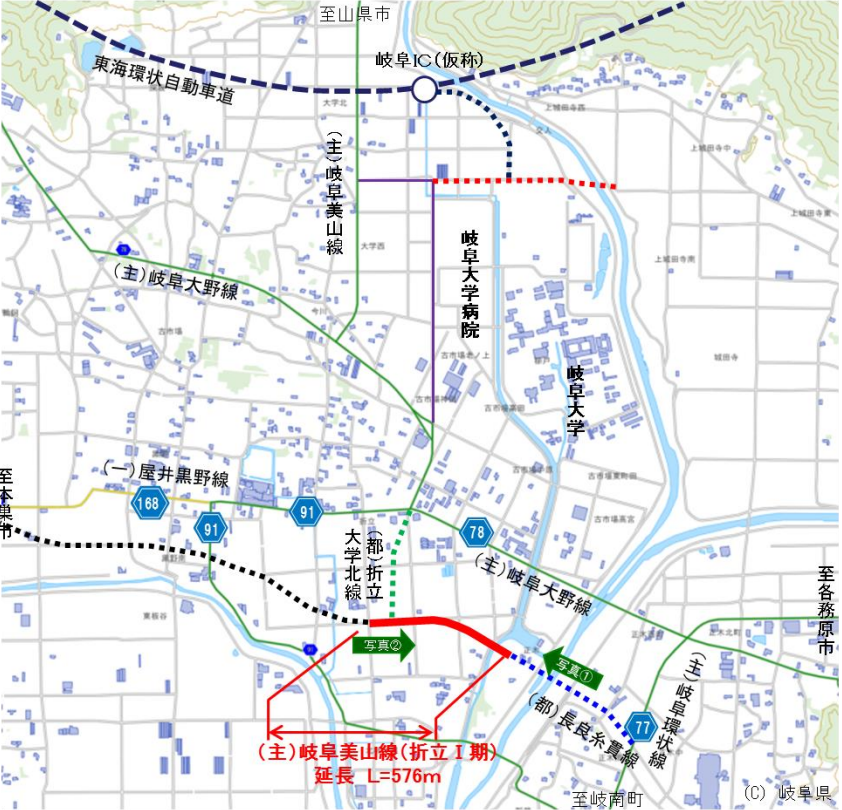
○地元住民および関係自治体から、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	2	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 主要地方道 岐阜美山線 折立Ⅰ期工区
事業実施箇所	岐阜市正木地内 ～岐阜市折立地内		事業主体 岐阜県
採択年度	平成24年度	完了予定年度	平成32年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で、継続中の事業（経過措置）		
事業目的	一般県道岐阜美山線は、岐阜市早田を起点とし山県市谷合に至る延長約24kmの幹線道路である。当該事業は並行路線である(主)岐阜大野線の慢性的な渋滞緩和、東海環状自動車道 岐阜IC(仮称)、及び第三次緊急医療機関である岐阜大学病院へのアクセスの向上を目的としている。		
事業概要	事業延長：576m 車道幅員：3.25m×4車線 歩道幅員：3.00m（両側）		
概要図	  写真①  写真② 		

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 岐阜美山線

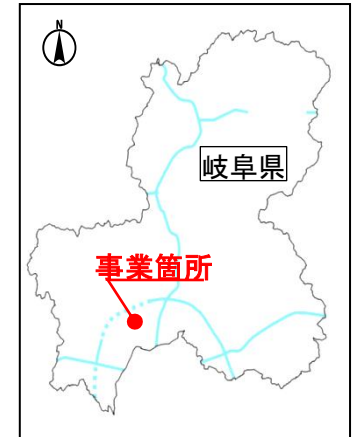
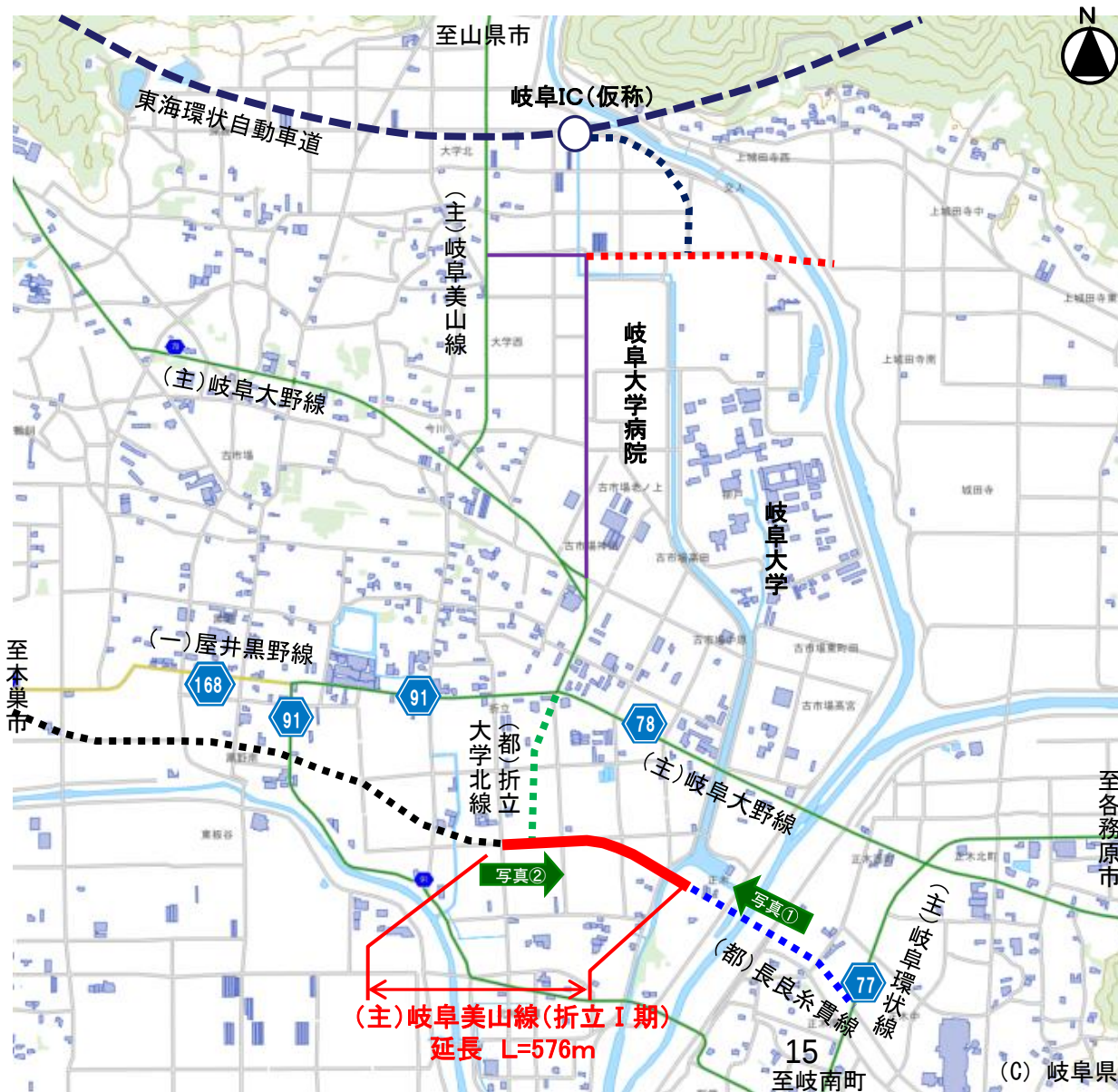
おりたて
(折立Ⅰ期工区)

岐阜県 県土整備部 道路建設課

平成29年9月



位置図



写真①



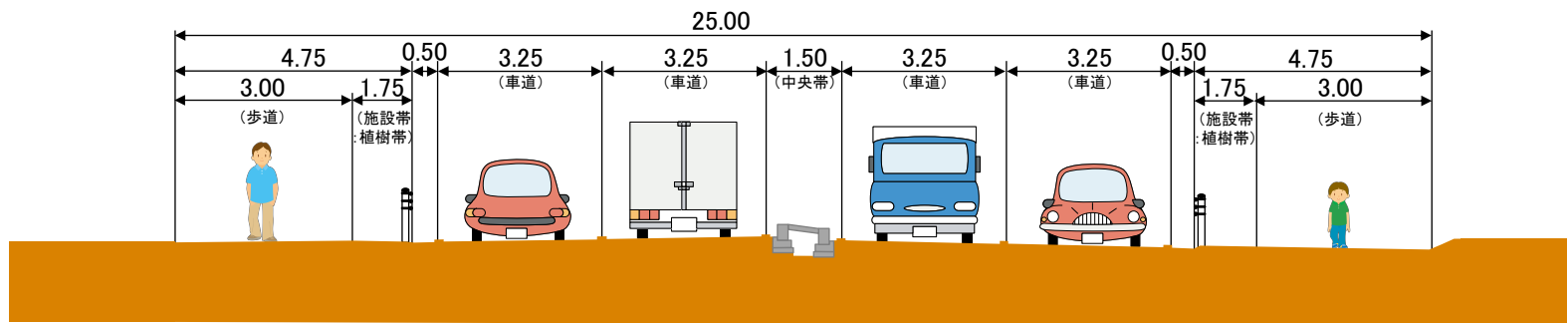
写真②



事業概要

- ◆起 終 点：^{ぎふし まさき}岐阜市正木～^{ぎふし おりたて}岐阜市折立
- ◆延 長：5 7 6 m
- ◆総事業費：約 2 4 億円
- ◆事業着手：平成 2 5 年度
- ◆完成予定：平成 3 2 年度（参考）※
- ◆幅 員：車道 3. 2 5 m × 4 車線
：歩道 3. 0 m（両側）

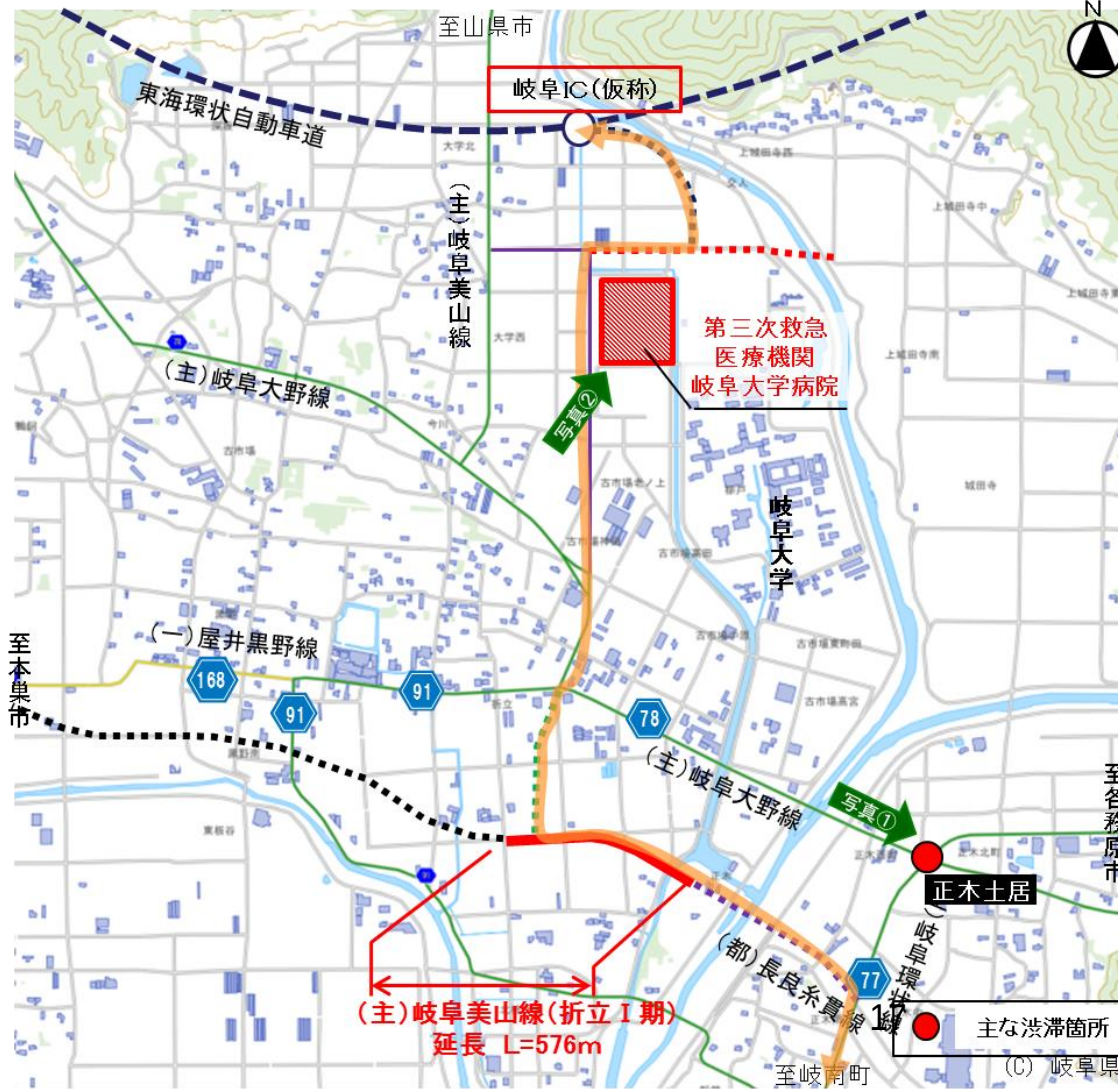
◆標準横断面図



※東海環状自動車道整備の進捗に合わせ対応¹⁶

事業の目的

- 【渋滞緩和】 並行路線の(主)岐阜大野線の慢性的な渋滞の緩和を図る。
- 【アクセス強化】 東海環状自動車道 岐阜IC(仮称)へのアクセス強化を図る。
第三次救急医療機関である岐阜大学病院へのアクセス強化を図る。



【写真① (主)岐阜大野線 渋滞状況】



【写真② 第三次救急医療機関: 岐阜大学病院】

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 8%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 2%

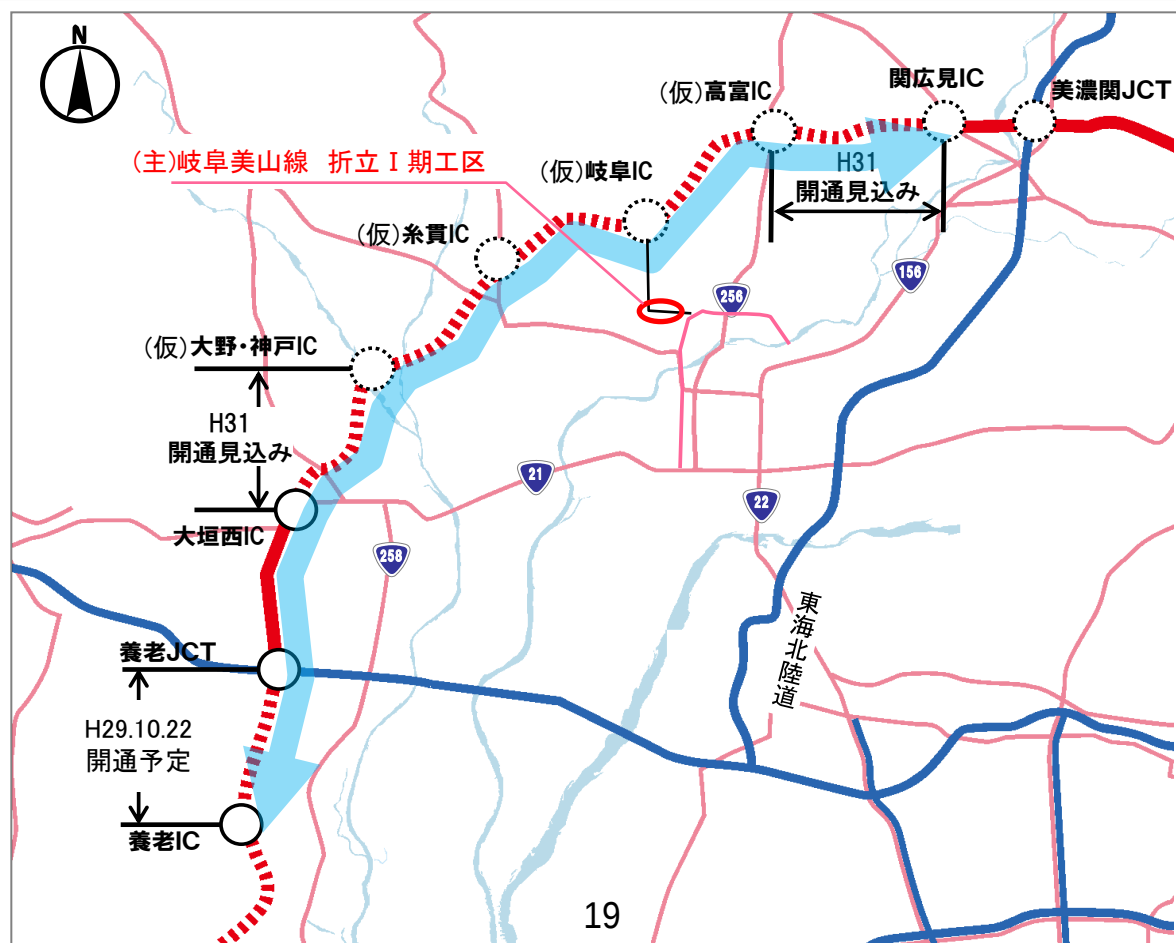
投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 6.5 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(H20.11 国土交通省)に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 東海環状自動車道について、平成29年度に養老JCT～養老IC間、平成31年度に関広見IC～（仮）高富IC間、（仮）大野・神戸IC～大垣西IC間が開通予定。
- （仮）高富IC～（仮）大野・神戸IC間も開通に向け着々と整備が進められていることから、アクセス道路も着実に整備を進める必要がある。



事業の進捗状況

全体進捗率 60% ※

用地補償進捗率 90% ※

工事進捗率 0% ※

※ 平成28年度末事業費ベース

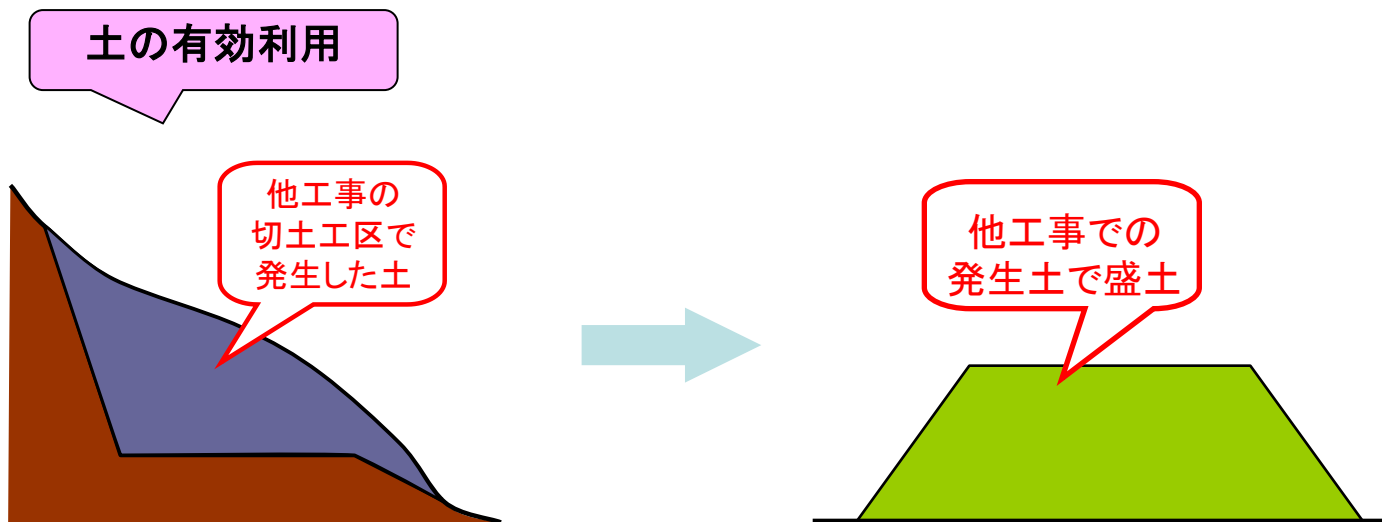


コスト削減の取り組み

◆盛土材の流用によるコスト削減

■他工事で発生した土砂、 $V = \text{約} 8,000 \text{ m}^3$ を盛土部に有効利用

約4千万円のコスト削減



対応方針(案)

○主要地方道岐阜美山線 折立Ⅰ期工区の整備は、アクセスの強化や渋滞緩和など、安全で円滑な交通の確保に大きく寄与する。

○地元住民および関係自治体から、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	3	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 主要地方道 大垣養老公園線 鷺巣工区
事業実施箇所	ようろうぐんようろうちやうほんのき 養老郡養老町飯ノ木地内 ～ ようろうぐんようろうちやうわしのす ~養老郡養老町鷺巣地内		事 業 主 体 岐阜県
採択年度	平成13年度	完了予定年度	平成35年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的			
主要地方道大垣養老公園線は岐阜県大垣市静里町を起点とし、岐阜県養老郡養老町養老へ至る延長約10.1kmの主要幹線道路である。当該事業は、現道のバイパス路線となる1,550mの2車線道路であり、災害時の緊急輸送機能向上、東海環状自動車道 養老IC（仮称）へのアクセス向上を目的としている。			
事業概要			
事業延長：1,550m	車道幅員	：3.00m×2車線	
	歩道幅員	：3.00m（片側）	
概 要 図			

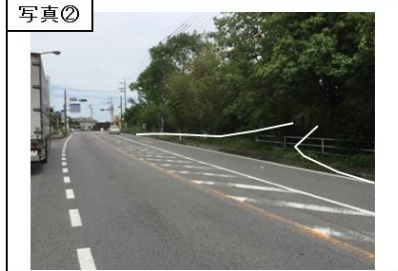




写真①



写真②



(C) 岐阜県

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 大垣養老公園線

わしのす
(鷺巣工区)

県土整備部 道路建設課

平成29年9月

24



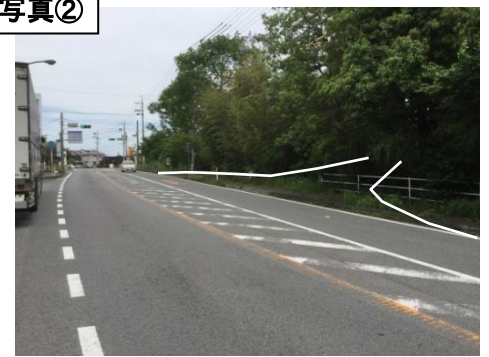
位置図



写真①



写真②



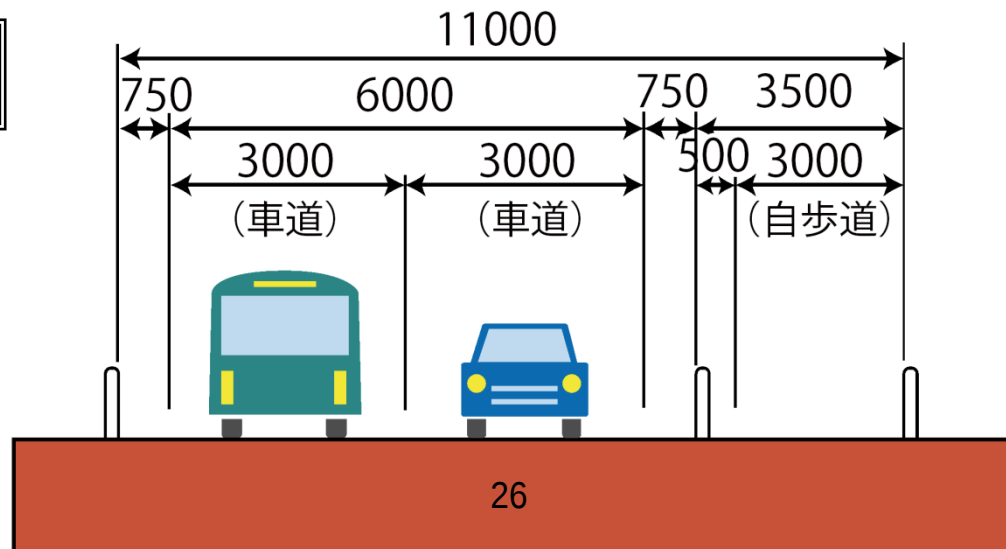
事業概要

はんのき

わしのす

- ◆起 終 点：養老郡養老町飯ノ木～養老郡養老町鷺巣
- ◆全体延長：1, 550m
- ◆総事業費：約46億円
- ◆事業着手：平成14年度
- ◆完成予定：平成35年度
- ◆幅 員：車道 3.0m × 2車線
：歩道 3.0m（片側）

標準横断図



事業の目的

■災害時の緊急輸送機能向上

信号が多い市街地を通過する現道を補完

■東海環状自動車道 養老ICからのアクセス向上

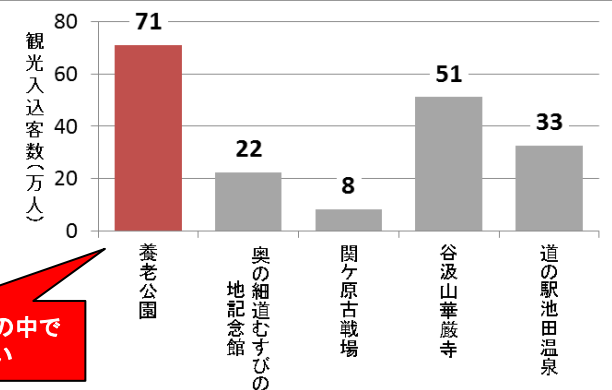
観光客数の多い養老公園、及び周辺地区へのアクセス向上



写真①



【(主)大垣養老公園線 現道市街地】



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約85%
- 走行経費減少便益 効果全体の約11%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 4%

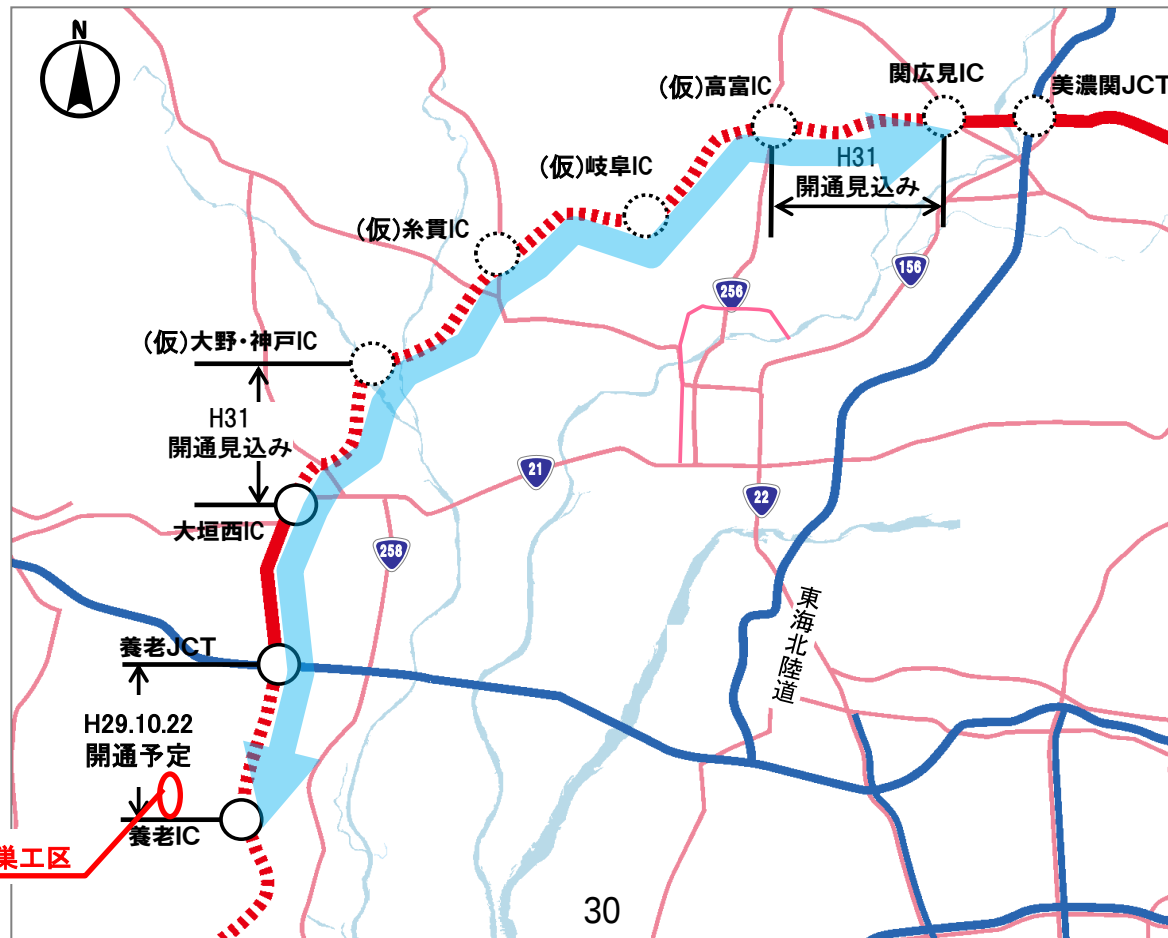
投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.7$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 東海環状自動車道について、平成29年度に養老JCT～養老IC間、平成31年度に関広見IC～（仮）高富IC間、（仮）大野・神戸IC～大垣西IC間が開通予定。
- （仮）高富IC～（仮）大野・神戸IC間も開通に向け着々と整備が進められていることから、アクセス道路も着実に整備を進める必要がある。



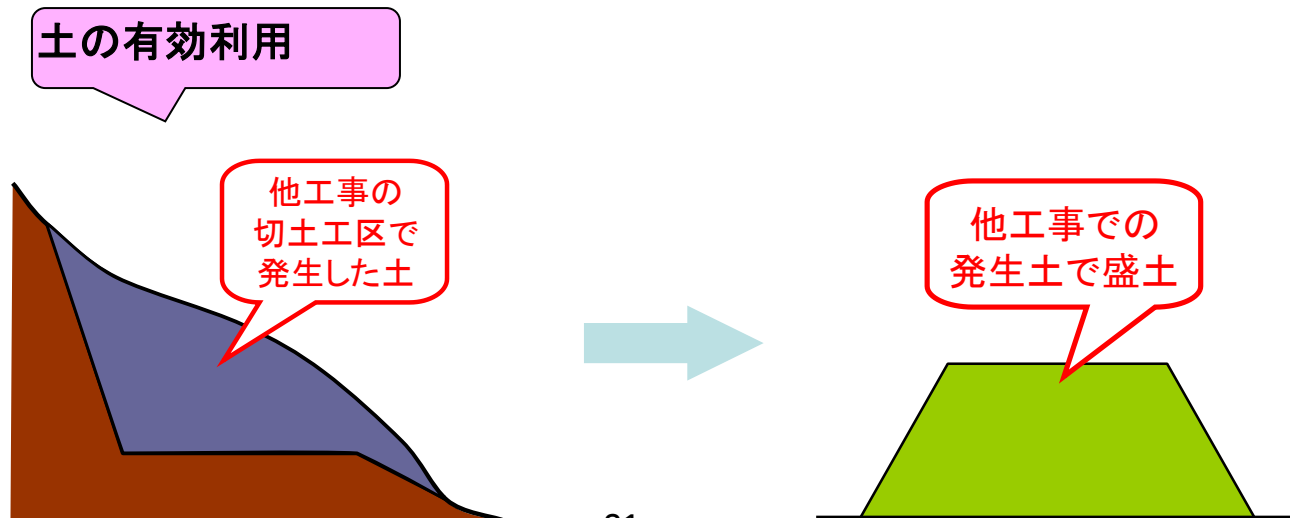
(主)大垣養老公園線 鷺巣工区

コスト削減の取り組み

◆盛土材の流用によるコスト削減

■他工事で発生した土砂、 $V = \text{約} 8,000 \text{ m}^3$ を盛土部に有効利用

約4千万円のコスト削減



今後の方針

○(主)大垣養老公園線鷺巣工区の完成は、災害時の緊急輸送機能向上、東海環状自動車道 養老ICへのアクセス向上など、当該地域の安全や発展に大きく寄与する。

○地元住民及び関係自治体から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	4	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） (主要地方道岐阜美濃線 極楽寺工区)
事業実施箇所	美濃市極楽寺 ～美濃市極楽寺	事 業 主 体	岐阜県
採択年度	平成24年度	完了予定年度	平成34年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	本路線は、岐阜市長良南町を起点として、美濃市松森に至る路線であり、岐阜市と美濃市を結ぶ重要な幹線道路である。当該事業は、美濃市極楽寺地内の844m区間を現道拡幅するものである。 東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス強化及び交通混雑の緩和を目的としている。		
事業概要	事業延長：844m 車道幅員：3.25m×4車線 歩道幅員：3.00m（両側）		
概 要 図	位置図 事業箇所 富山県 石川県 福井県 岐阜県 滋賀県 三重県 高山市 中津川市 多治見市 美濃加茂市 岐阜市 大垣市 当該工区		

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 岐阜美濃線 (^{ごく}^{らく}^じ極楽寺工区)

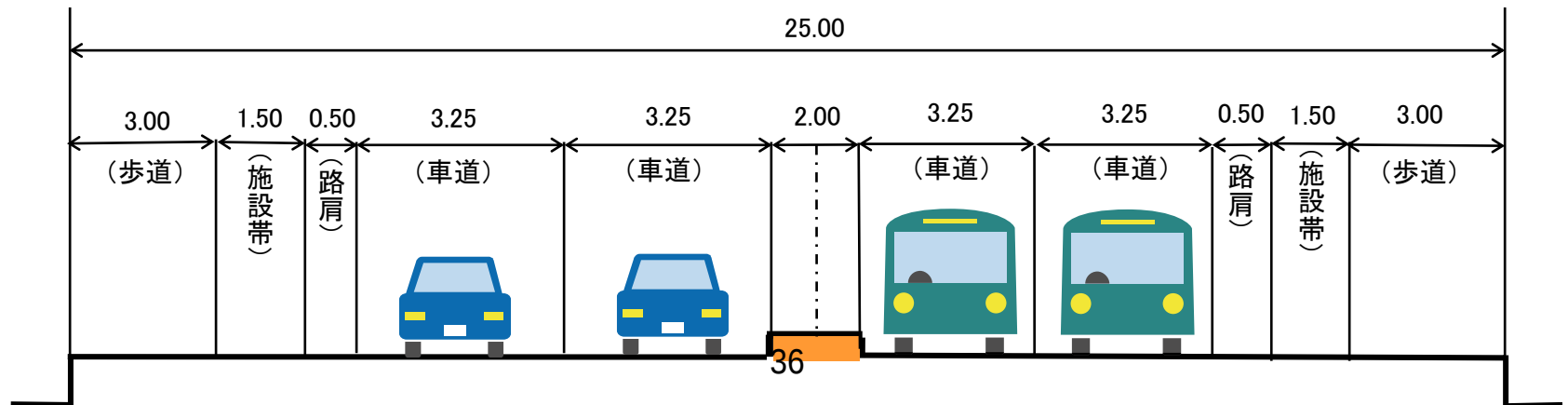
県土整備部 道路建設課
平成29年9月



事業概要

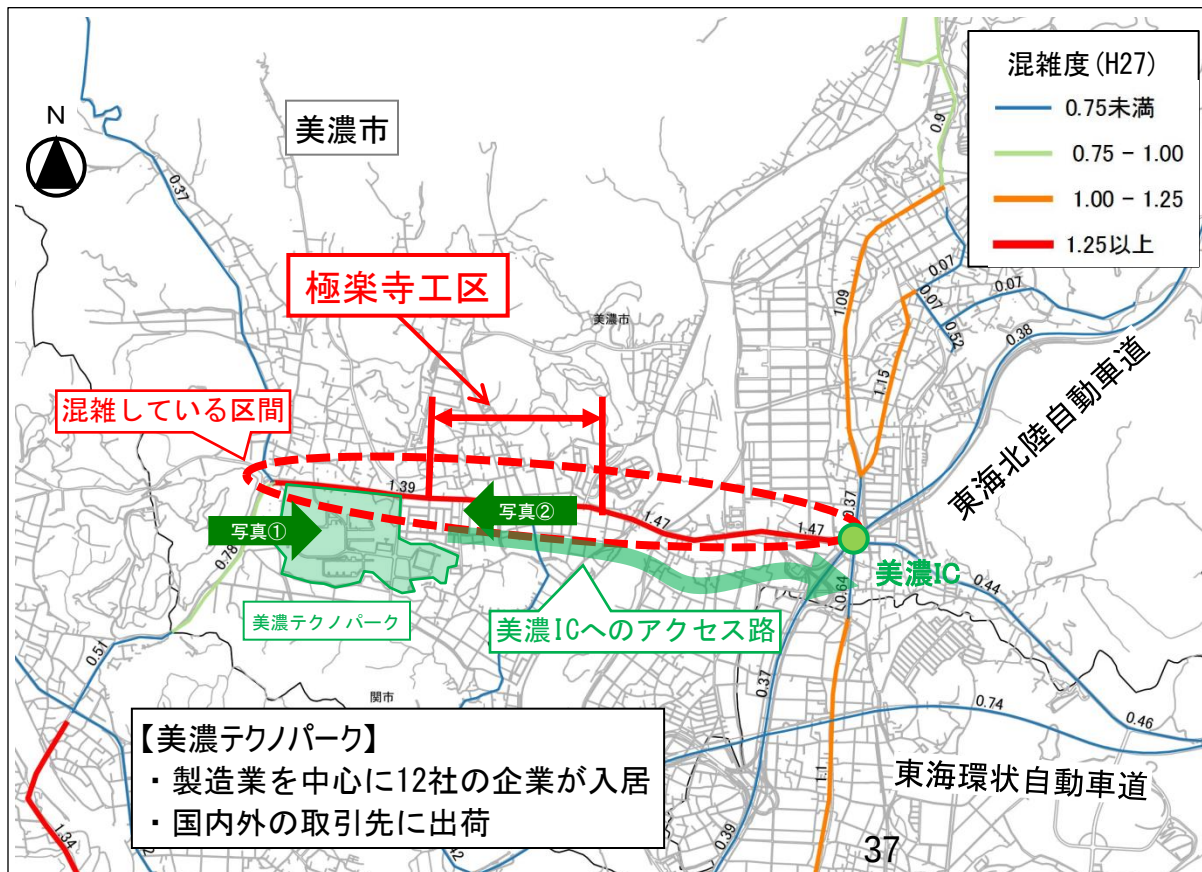
- ◆ 起 終 点 : 美濃市極楽寺みのしごらくじ～美濃市極楽寺みのしごらくじ
- ◆ 全体延長 : 8 4 4 m
- ◆ 総事業費 : 約 1 3 億円
- ◆ 事業着手 : 平成 2 5 年度
- ◆ 完成予定 : 平成 3 4 年度
- ◆ 幅 員 : 車道 3.25 m × 4 車線
: 歩道 3.00 m (両側)

標準横断図



事業の目的

- 本工区は美濃テクノパークをはじめとする美濃市楓台地区、関市武芸川町や岐阜市北部などからの東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス強化
- 本工区周辺は朝夕を中心に慢性的に混雑しており、整備によって混雑の緩和を図る



写真① 美濃テクノパーク



写真② 混雑状況



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 9%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 4.0$$

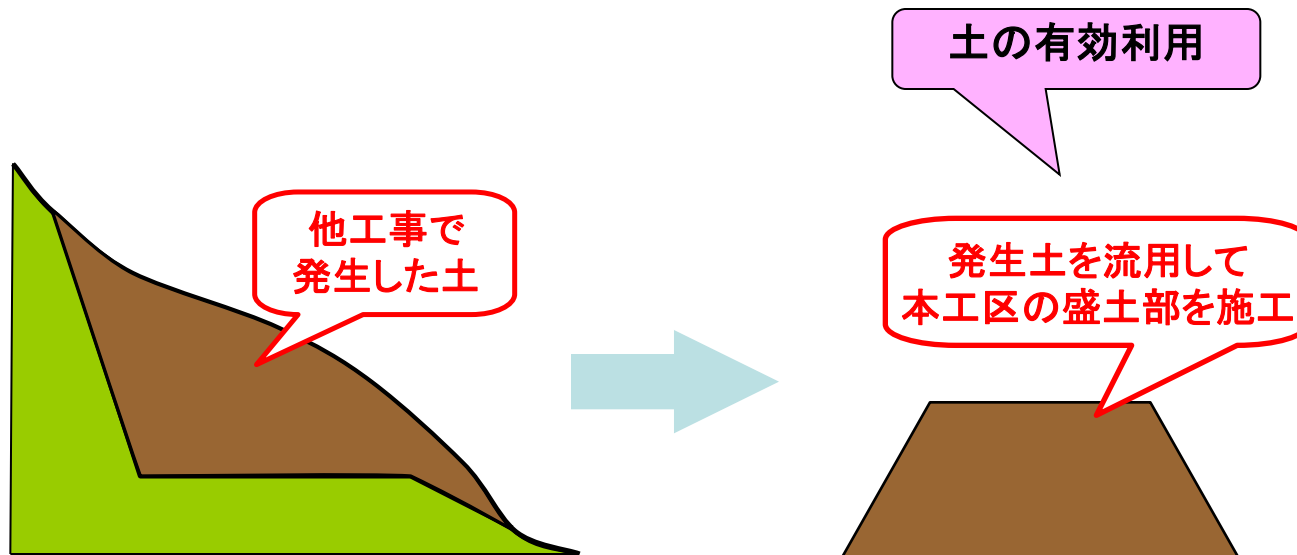
※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆盛土材の有効利用

■他工事で発生した土砂、 $V = \text{約} 5,000 \text{ m}^3$ を盛土部に有効利用

約2千万円のコスト削減



対 応 方 針（案）

○（主）岐阜美濃線 極楽寺工区の整備は、東海北陸自動車道 美濃 I Cへのアクセス強化を図るとともに、交通混雑の緩和に大きく寄与する。

○地元住民及び関係自治体から事業の継続、早期完成の要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	5	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 主要地方道 神岡河合線 太江杉崎工区
事業実施箇所	飛騨市古川町太江 ～飛騨市古川町杉崎	事業主体	岐阜県
採択年度	平成14年度	完了予定年度	平成39年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的	主要地方道神岡河合線は岐阜県飛騨市神岡町伏方を起点とし、岐阜県飛騨市河合町元田へ至る延長31.1kmの主要幹線道路である。当該事業は、現道に代わる延長1,480mのバイパス事業であり、国道41号の代替道路としての機能や、災害時に有効に機能する緊急輸送道路ネットワークの強化等を目的としている。		
事業概要	事業延長：1,480m 車道幅員 : 3.00m×2車線 歩道 : 2.50m（片側）		
概要図			

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 神岡河合線 たい え すぎ さき (太江杉崎工区)

県土整備部 道路建設課

平成29年9月

43



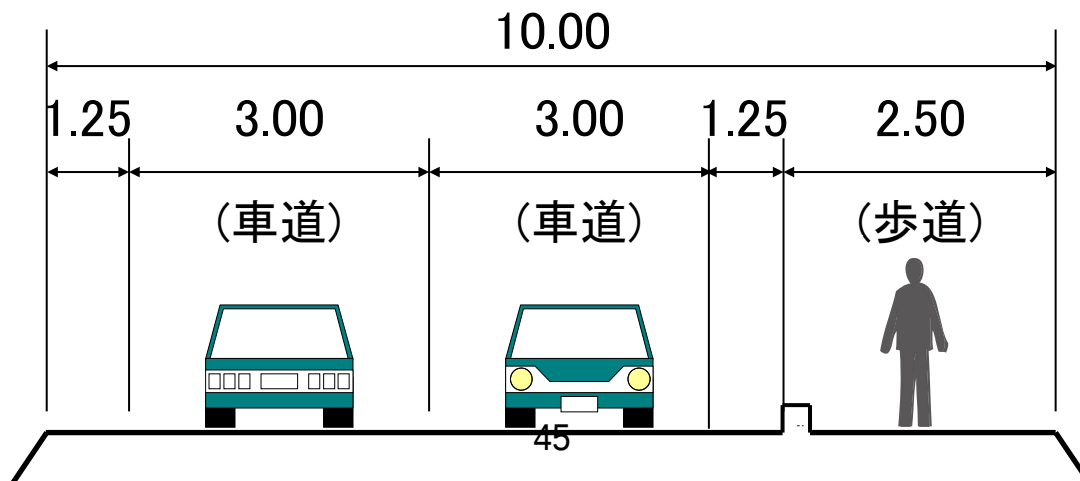
位置図



事業概要

- ◆ 起 終 点 : 飛騨市古川町太江ひだしふるかわちょうたいえ～飛騨市古川町杉崎ひだしふるかわちょうすぎさき
- ◆ 全体延長 : 1, 4 8 0 m
- ◆ 総事業費 : 約 2 0 億円
- ◆ 事業着手 : 平成 1 4 年度
- ◆ 完成予定 : 平成 3 9 年度
- ◆ 幅 員 : 車道 3. 0 0 m × 2 車線
歩道 2. 5 0 m (片側)

標準横断図

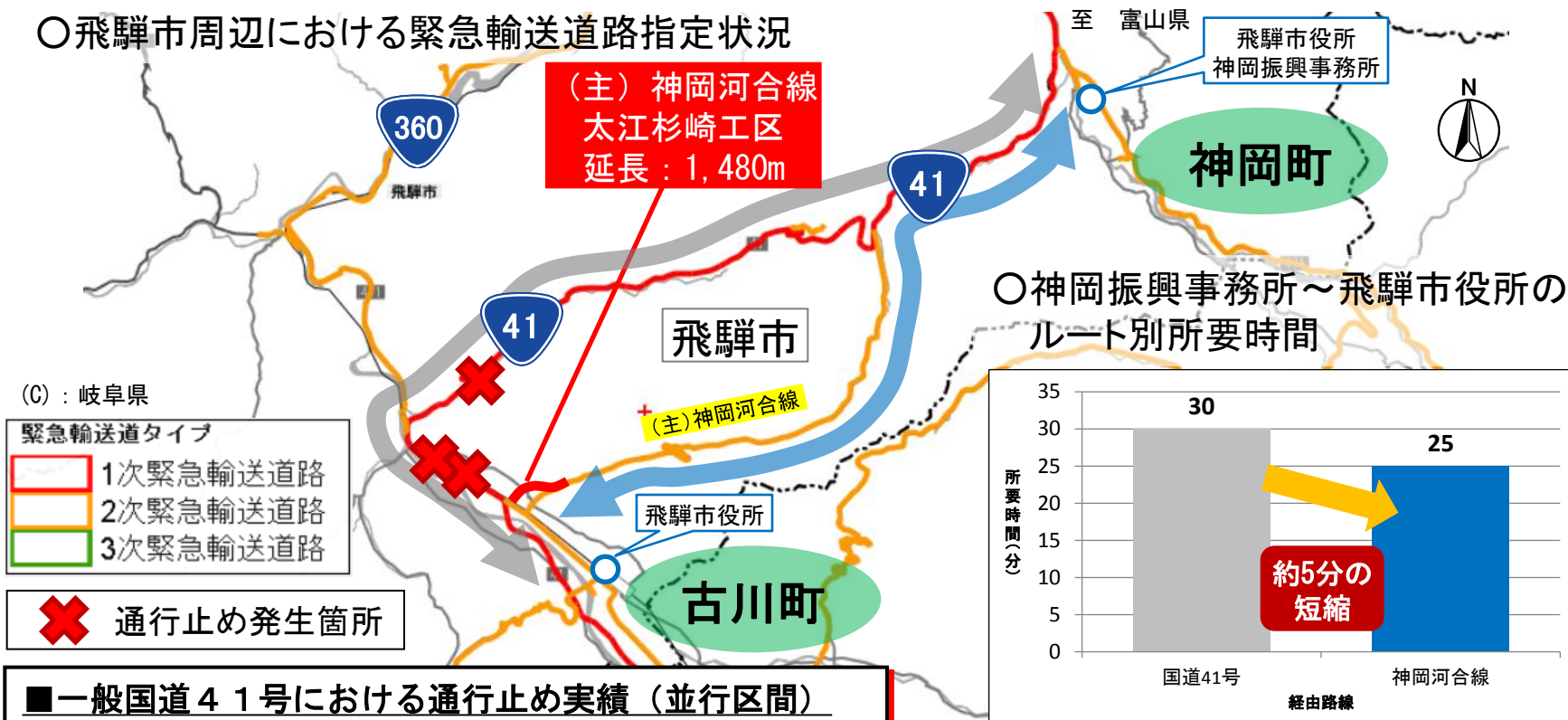


事業の目的

国道41号の代替機能、緊急輸送ネットワーク強化

- （主）神岡河合線は、飛騨市神岡町～古川町を結ぶ路線
- 第2次緊急輸送道路に指定されている上、国道41号の代替機能を果たし、災害時の緊急輸送等の信頼性向上が期待

○飛騨市周辺における緊急輸送道路指定状況



出典：平成27年度道路交通センサス
（神岡河合線は太江杉崎工区整備後を想定）

事業を巡る社会経済情勢等の変化

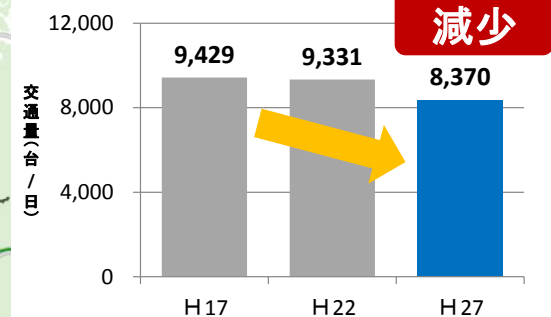
交通需要の変化に合わせた道路整備の推進

- 当該路線の道路改良状況は、太江杉崎工区のみが未整備の状態
- 近年、交通量が増加しており、交通需要の変化に合わせた整備が課題

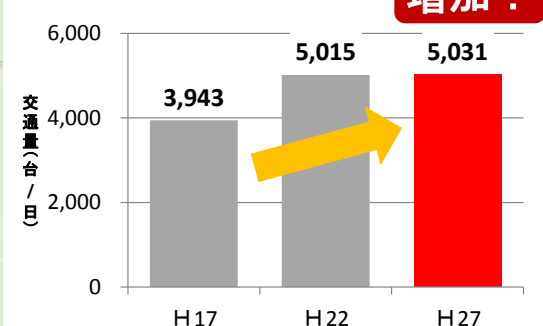


○交通量の変化

◆国道41号



◆(主)神岡河合線



出典: 道路交通センサス

進捗状況

全体進捗率 78%※

用地補償進捗率 76%※

工事進捗率 74%※

(用地取得進捗率 84%)

※ 平成28年度末事業費ベース



写真①



写真②



写真③



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約97%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 2%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.6 \text{ (全体)}$$

前回再評価時
(H24年度)
1.9(全体)

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費削減

当初：飛騨市内の市営残土処分場（要投棄料）へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：飛騨市内改良工事、高山市県道改良工事及び飛騨
市保育園造成工事へ流用



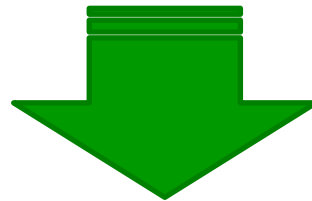
発生土1.1万m³を他事業で有効活用、残土処分費を削減

約6千万円のコスト削減

今後の方針

○(主)神岡河合線 太江杉崎工区の整備今後の方針は、安全で円滑な交通や緊急時に信頼性の高い道路ネットワークを確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元協力会及び飛騨市から合併後の市内交流に必要不可欠な路線の改良として、本バイパスの早期完成・事業促進の強い要望



＝供用に向け、事業継続＝